

「放送大学での思いがけない出会い」

同窓会会員：浅井 公子

投稿日：2016年6月17日

娘が結婚する事になり、その後の空の巣生活をどの様に過ごそうか考えていた時、友人から放送大学を紹介され、パソコンを勉強するサークルがある事に魅了され入学を決めました。数日後、入学案内と共に「ONAIR」が届き、目を通して見ると、新しく就任する先生方のお一人に見覚えのある名前を見つけました。息子が大学4年の秋、普段は冷静な子が、尊敬する中島先生の研究室へ合格を果たしたと興奮して、電話をかけて来たのです。その後、毎年、元旦に頂く年賀状で私もすっかり名前を記憶していたのです。

聞けば、春のT大総長選挙に敗れ、秋に放送大学の教授に就任なさったとのこと。在学中は、度々ご自宅にお邪魔し大変お世話になったこと等を初めて耳にしました。その時、私は春の卒業式でお会いする事を心に決め、卒業を半年間延ばすことにしました。副学長になられた先生は、大人の風格と穏やかな雰囲気と併せ持つ素晴らしい方でした。皆さまに取り巻かれ、お待ちすること暫し、先生にお会い出来た私は、在学中お世話になったお礼の言葉もそこそこに、なぜか息子に早く結婚するよう説得して頂きたいと、お願いをしていました。我が家は末子から結婚し、長男だけが独身で、尊敬する先生のお薦めならその気になるのではという思いでした。その後、息子の結婚式で頂いたご祝辞で、卒業式でのエピソードが披露され赤面した事は言うまでもありません。

建築家の夫の書斎には建築写真集や雑誌などが沢山有り、「門前の小僧習わぬ経を読む」と喩えるにはすこし憚れるのですが、いつの間にか私も住宅に深く関心を寄せていて、延ばした半年間の卒業研究は、厨房の歴史（住居学）に挑みました。

ゼミのご指導を頂いた本間先生は、戦後建築の第一人者である清家清先生の愛弟子で、清家先生との交流の様子を直に伺う時は、わくわくしながら聞き入りました。

更に、夫のゼミ仲間、私もそのご家族と少し関わりのあるN氏と本間先生が、親しい交流をお持ちである事も分かり、不思議なご縁に驚きました。

主婦の世界だけに浸っていた生活では、全くご縁が無かった先生方との出会いは、放送大学に入学したお陰で頂いた意義有る財産となりました。

その後、本間先生の許で「100年住宅」の研究をする事になったのですが、思いがけない出会いは更に続く事になりました。

以降「100年住宅」に続く